

札幌市緑の基本計画改定に向けた 中間報告概要版

この概要版は、「札幌市緑の審議会」で検討中の内容を
中間報告としてとりまとめたものを、要約したものです。

目 次

■はじめに	P.1
1 札幌市緑の基本計画とは	
2 改定の背景と目的	
3 計画の見直し年次	
4 さっぽろのみどりのはたらき	
■計画の体系	P.3
■みどりの将来像図	P.4
■協働による取組みの指針（活動事例をもとに）	P.5
■みどりの将来像の実現に向けた目標	P.7
■計画の進行管理	P.7

1 札幌市緑の基本計画とは

札幌市緑の基本計画は、次代のみどり豊かな札幌のまちづくりのための総合的な指針となるものです。行政の施策や取り組みのみではなく、市民の参画や協働によるみどりにかかわる活動を実践する必要があることから、この緑の基本計画は、190万人市民一人ひとりの活動の道しるべになるものです。

<みどりの定義>

この計画では、札幌市内における公園、森林、草地、農地、河川や湖沼池のほか、民有地を含めたすべての緑化されているスペース、さらには樹木や草花（コンテナや鉢などに植えられたものも含む）などを包括する言葉として、漢字の「緑」として固有名詞表記や緑化などの熟語などを除き、平仮名の「みどり」を用います。

2 改定の背景と目的

平成11年（1999年）6月に「札幌市の緑の基本計画」を改定し、「実現しようみんなの手で 人とみどりが輝くさっぽろ」を基本理念として、計画実現に向け、さまざまな機会を通じて市民とともにみどりづくりに取り組み、策定後10年以上を経過しました。

この間、景観緑三法の制定のほか、地球温暖化対策推進大綱、ヒートアイランド対策大綱、第3次生物多様性国家戦略の閣議決定などが行われるなど、地球環境保全の取り組みの重要性が増し、緑を取り巻く社会的状況が大きく変化しています。

札幌市では、市民と協働によるまちづくりを進めているとともに、平成20年（2008年）6月には世界に誇れる環境都市を目指す「環境首都・札幌」宣言を行い、環境保全への取り組みも進めています。

その一方で、財政的な制約が厳しさを増す中で、これまでつくりあげてきた公園や街路樹、市有林を効果的に守り次代に引き継いでいく必要が生じています。

このようなことから、「市民が主役のまちづくり」と「地球環境問題への対応」を重要課題として位置づけるとともに、効率的なみどりの保全のあり方を踏まえ、以下の点をポイントにして「札幌市緑の基本計画」を改定することにしました。

主な改定のポイント

- 基本理念「実現しようみんなの手で 人とみどりが輝くさっぽろ」は継承する。
- 協働によるみどりづくり、地球環境問題への対応の強化、効率的なみどりの維持管理の観点を追加する。
- 190万人市民一人ひとりのみどりに関わる活動の道しるべとなる計画とする。
- 「みどりとみどりをつなぐ」「人とみどりをつなぐ」「人と人をつなぐ」に共通する”つなぐ”を計画推進のキーワードとする。
- より具体的なみどりの将来像を示すとともに、実現するための計画を4つの柱と12の推進プログラムに再編する。
- 計画を確実に推進するため、12のプログラムごとの指標やその評価などの進行管理を強化する。

3 計画の見直し年次

この計画は、第4次札幌市長期総合計画の目標年次にあわせ、計画目標年を概ね平成32年（2020年）として見直します。

4 さっぽろのみどりはたらき

●都市環境、地球環境を保全・改善する

- ・樹木が増えることによりCO2の低減や水源かん養、大気の浄化のほかヒートアイランド現象の抑制につながります。
- ・街をとりまくみどり及び市街地のみどりを保全・創出・ネットワーク化することで、多様な動植物の生育・生息・移動空間が保全されます。
- ・落葉や刈草を用いた堆肥づくりや剪定枝のチップ化による舗装材としての活用などのみどりのリサイクルの取組みが、循環型の都市形成に寄与します。

●札幌らしい景観をつくりだす

- ・藻岩山や豊平川といった、街をとりまく山並み、河川、草地などが街にうるおいを与え、札幌市を特徴づける風景・景観を形成します。
- ・北国の気候、風土に適した樹木や花が、四季を通じて街並みを彩り、地域の歴史的なみどりやシンボリックなみどりを保全・創出することで、地域ごとの個性的な景観を創出します。

●安全・安心な都市基盤を形成する

- ・公園や緑地をはじめとするオープンスペースは、災害時の避難地、避難路、延焼防止帯として機能しています。これらを適切に配置・ネットワーク化することで、広域防災拠点などとして重要な機能を果たし、街の安全性や市民の安心感を高めます。
- ・一部の公園や緑地は冬季に雪を置く場所として機能するなど、快適な冬の暮らしに貢献します。
- ・森林や緑地は、水源かん養による洪水の調節のほか、市街地では騒音や振動を緩和する効果もあり、健全な生活空間を担保します。

●人々のさまざまな活動の場となる

- ・公園や緑地などは、市民の健康増進につながる、スポーツ、レクリエーション、休養、散策などの余暇活動の場となります。
- ・余暇時間の増大、価値観の多様化などに伴う、園芸活動や自然に親しむライフスタイルを充実させる場となります。
- ・家庭や学校、地域における自然教育、自然体験などの学習機会の場となります。

●人々をつなぎ、まちに活力をもたらす

- ・公園や緑地、森林での活動を通じて人と人がつながり、コミュニティを醸成します。
- ・みどりを通じたコミュニティがより大きなつながりやネットワークをはぐくむことで、街に活力や住みやすさをもたらします。

現計画を踏襲
しています

街にうるおいや安らぎを与え、地球環境にとって大切なみどりを、
わたしたち自身が守り育て、次世代へつないでいく

実現しようみんなの手で人とみどりが輝くさっぽろ

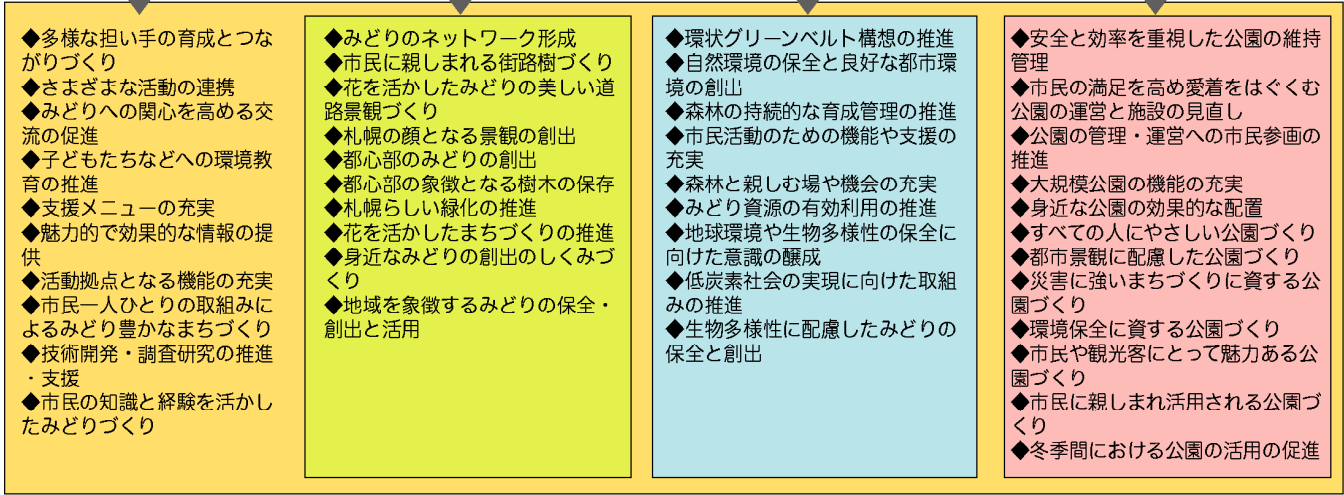
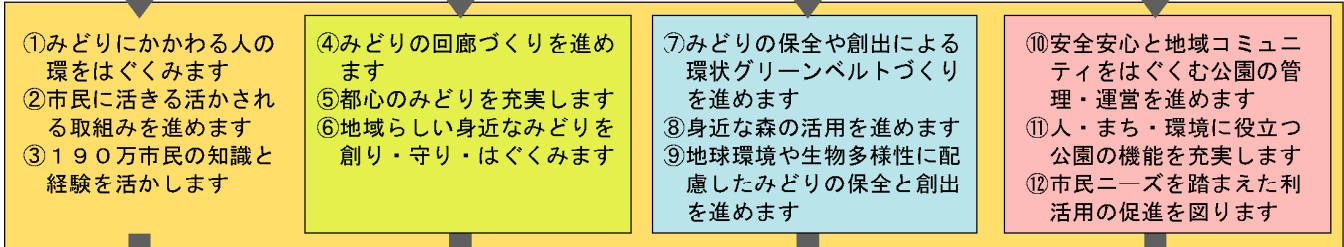
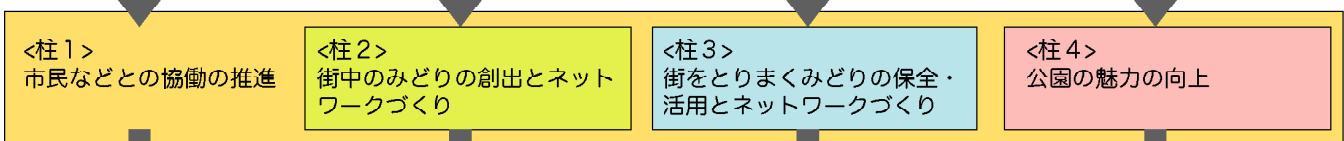
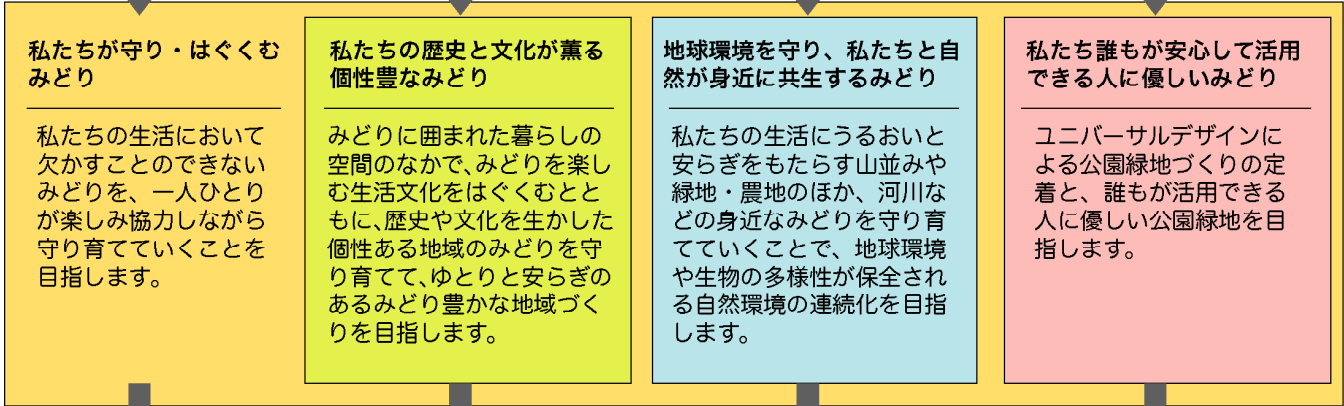
「つなぐ」

“みどりとみどりをつなぐ” “みどりと人をつなぐ” “人と人をつなぐ”

計画の基本理念

みどりの将来像

推進プログラム



・ 協働による取組みの指針（活動事例をもとに）

・ 計画の進行管理

■この計画の推進に際しては『つなぐ』をキーワードとして、いまあるみどりを残し・増やすことによる「みどりとみどりのつながり」や、市民がみどりを守り・育てることによる「みどりと人のつながり」のほか、みどりの活動を通じた「人と人のつながり」をはぐくみます。

“みどりとみどりをつなぐ”

みどりの保全や創出により、市街地やそれをとりまくみどりのネットワークづくりを進めます。

“みどりと人をつなぐ”

みどりとふれあう場や機会の充実を図り、市民がみどりを守り・育て・活かす心とかかわりをはぐくみます。

“人と人をつなぐ”

人材育成や環境教育の推進、交流・情報発信の充実を図り、みどりをきっかけとした人のネットワークづくりを進めます。

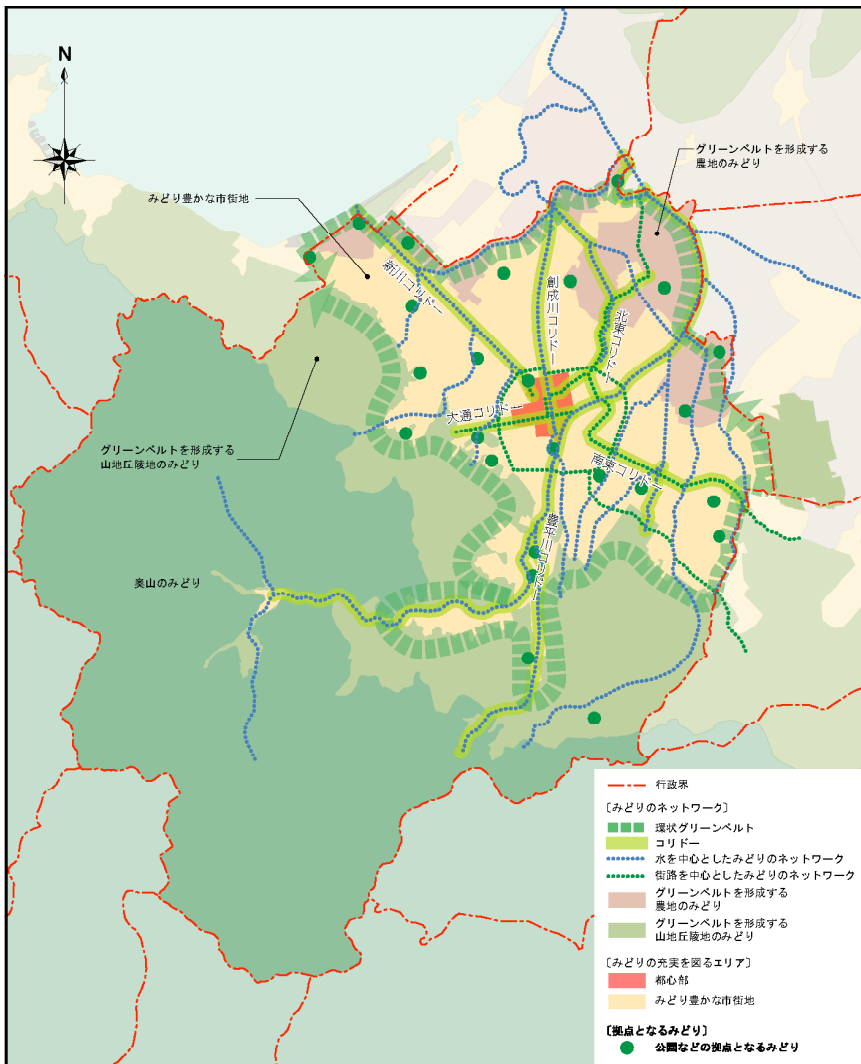
■札幌市の豊かなみどりづくりやまちづくりのために、市民との協働を推進します。

●協働の担い手

この計画では、協働の担い手として、「市民」、町内会やNPOなどの「活動団体」、「企業」、「大学など専門機関」、「行政」の5つに整理しています。

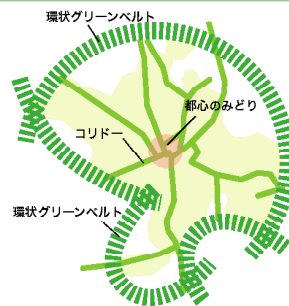
担い手は、それぞれができる協働のあり方で、まちのみどりづくりの取組みを進めていくとともに、活動や人をつなぐことでネットワークづくりを進め、さらには「連携による協働」へ取組みを進めていくことで、より大きな取組みとして札幌のみどりづくりを進めていくこととなります。

みどりの将来像図



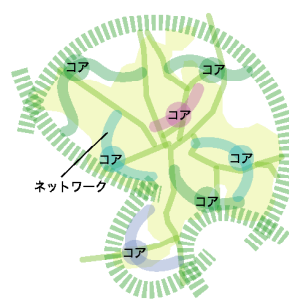
みどりの将来像実現に向けた「みどりとみどりをつなぐ」段階的な考え方

札幌の骨格のみどり



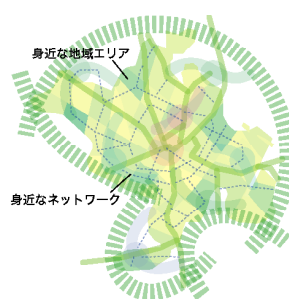
環状グリーンベルト、コリドー、都心部のみどりづくりを進め、札幌の骨格となるみどりづくりを行います。

地域を越えた特徴あるみどり



水を中心としたネットワーク、街路を中心としたネットワーク、公園などの拠点となるみどりづくりを進め、地域を越えた特徴あるみどりづくりを行います。

私たちの身近なみどり



地域の状況に応じたみどり豊かな市街地づくりを進め、私たちの身近なみどりづくりを行います。

